三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト　関係人口創出実践業務仕様書

１．目的

三河安城駅周辺では、人口減少社会や高齢社会の進展、地域コミュニティの希薄化が課題となる社会にあって、持続可能な地域を実現するために、西三河地域を射程とする関係人口創出プロジェクトを進めている。このプロジェクトは、地域住民、活動者、企業が関わり続けるプラットフォームをエンジンとし、「まちをつかってつくる」OS を搭載した「三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト（以下、「MAPP」という。)」と呼ぶものである。MAPP の OS である「まちをつかってつくる」は、「対話」と「活動」を基本とするものであり、「まちをつかう＝居住によらず地域との関係を育てるひとづくり」と「まちをつくる＝公民問わずハードを伴ったまちづくり」を「つなげるしくみづくり」の３つを連動させながら進める新しいまちづくりの領域である。

これまでの MAPP では、持続可能な地域として必須となる「関わり続けるひと」を育てる取組を中心に、「関わる、活動に必要な機能の実装を行う小規模なまちづくり」を繰り返し仕掛けているところである。現在の都市計画領域で言い換えれば、現在活用されておらず活動者不在だったまちを、「三河安城をつかいきっているビジョン」の下、様々な立場の活動者とともに三河安城に関わり続けるために必要な機能を探求しているものである。

ここでの「関わり続けるために必要な機能」とは、先述のとおり、西三河を射程とする関係人口を創出する何かであり、これは単に住み続けるために「日常の利便に寄与する機能」といった「定住人口＝住む人」だけをターゲットにしたものではない。

ここで必要とする機能は、三河安城駅周辺で「関わり続けるひと」になりうる活動者をターゲットに、給排水施設や電源などの「活動を豊かにする（＝高次な活動に挑戦できる）機能」、同様にトレーラーハウスや金網、バスケットコートなどの「継続的に高次な活動に挑戦できる機能」、就労者等をターゲットとするフリーWi-Fi スポットや情報配信板などの「滞在するきっかけとなる価値の付与」、新たな出店者等をターゲットとする人流センサーや自動車交通量センサーなどの「活動のきっかけとなるデータ収集機能」、ステークホルダーをターゲットとする公共的空間使用申請等の自動化などの「まちを無理なくつかい続けられる仕組み」、そしてまちに関わる人を幅広くターゲットとするマチナカプレイスメイキングのＰＲポスター、三河安城ＰＲ自販機、デザインコンペ in 三河安城などの「関係づくりのきっかけとなる目的の可視化機能」といった有形無形の機能ではないかと考える。

ここで「活動者」に注目すると、三河安城駅周辺における３年間にわたる活動により、少しずつ課題意識を持った活動者が育ち、対話のプラットフォーム「つかう.meet」が対話だけでなく共同活動を行い、これらによってさらに活動者が増えるという、「まちをつかう」好循環が発現しつつある。しかし、「これまで使われていなかったまち」であるが故、まずは活動者を発掘することに重きを置いたため、活動者相互や活動への参加者向けに目的意識の共有が十分なされていなかった。また「滞在者」に視点を合わせれば、少しずつ増えていった「まちをつかう」取組に参加される方々も同様に増えたものの、活動自体の認知が思うように進まなかった。以上を踏まえ、MAPP で少しずつ育ってきた「まちをつかう」好循環の強化及び活動目的の共有に加え、活動自体への参画が促せるような「活動者」と「滞在者」の関係づくり（関わりあうしかけづくり）を出発点とする取組の重要性が改めて浮き出てきている。

この「関係づくりのきっかけとなる目的の視覚化機能」のテコ入れを行い、同時に「新たな活

動者・関係者発掘」を目論んだのが「三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト　アクセラレーション業務」であり、昨年度実施した「デザインコンペ in 三河安城」である。ここでは、新たなプレイヤーを発掘する「まちをつかう部門」、継続的かつ工作物を伴ったステークホルダー型マチナカプレイスメイキングを発掘する「場のデザイン部門」、そして三河安城を俯瞰し共有テーマ、地域間テーマ、さらには三河安城でちりばめるべきコンセプト、しかけを総合的にイメージし、ステークホルダーが「まちをつかう」と「まちをつくる」を意識するきっかけを生む「まちのデザイン部門」を仕掛けるに至っており、現在の活動者の２．５倍にあたる５２件もの三河安城を「つかってつくる」提案がなされた。ここでの大きな気づきは、地域住民や「課題を見える化」できるデザイナーを巻き込む上で必要な「発信する力」であり、その過程で育まれた「シビックプライドを育成するきっかけ」がいかに重要であるかという点である。

このように、「まちをつかう」が仕組みとして育ち始める中、「まちをつくる」も大きく動き始めている。デザインコンペ in 三河安城での「まちのデザイン部門」、「場のデザイン部門」に端を発した共通のビジョンづくりやその具現化に向けた継続的な作戦会議の必要性もさることながら、三河安城駅周辺に建設が計画されているプロバスケットボールチーム「シーホース三河」の本拠地であり、体育館機能だけでなく関係人口創出のための交流機能（第三次安城市都市計画マスタープラン（立地適正化計画を内包）における誘導施設）を有する「多目的交流拠点」の存在がまさにそれである。本施設にあっては、シーホース三河株式会社、株式会社アイシンと安城市はそれぞれ包括連携協定を締結し、協議を進めている。本施設は、関係人口創出のために都市計画上必要な交流機能であり、現在成長中の「まちをつかう＝居住によらず地域との関係を育てるひとづくり」を強固に支援し、関係人口創出の起爆剤となり、一丸となってチームを応援する中で期待される「シビックプライド」の育成にもつながる施設としてその地域に息づくことが嘱望される。しかしながら、本施設については民間事業故に開示される情報も少なく、地域住民も含め、実態がつかめていないのが現状である。地域に愛され、つかわれ、「まちをつかう」ひとづくりに貢献できる機能であるためには、地域住民、活動者、企業、行政の理解が進むよう「情報を配信」し、「多目的交流拠点のつかい方がイメージ」でき、「まちとの連携が意識」できる状態にしていかなければならない。また、これに限らず、三河安城駅周辺ではカーボンニュートラル、スポーツとまちづくり、ＳＤＧｓといった、数々の取組が公民連携で仕掛けられており、これを総合的に捉え、地域住民、活動者、企業、行政の相互理解が進むよう留意し、関係人口づくりを進めていかねばならない。

以上より、本業務は、大きく「関係人口創出の第一歩として地域住民・活動者・企業の関わりづくりを行うこと」を掲げ、「多目的交流拠点と地域住民・活動者との関係づくりを行うこと」、「多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくりを行うこと」、「みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、みんなで想像すること」、これら３つを実現し、MAPP を加速させることを目的として取り組むものとする。

そして、この業務目的に達するため、「**三河安城駅周辺における関係人口創出機能**」を強化するきっかけとなる「三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方」のコンセプト（以下、「つかい方コンセプト」という。）」を、「多目的交流拠点の、継続的な活動に挑戦できるシーン別のつかい方を考える対話の場（以下、「つかい方ワークショップ」という。）」により収集、とりまとめ、「地域住民、活動者、滞在者参加型の発露機会（以下、「つかい方フォーラム」という。）」を設けながら戦略的に地域を巻き込む業務と位置付ける。

２．委託場所

三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画内のウォーカブル区域中央部（JR 東海道本線及び同新幹線に挟まれた領域内）

３．履行期間

契約締結日の翌日から令和６年３月２２日まで

４．業務内容

（１）各種計画・事業等の整理

三河安城駅周辺における各種計画（３Ａプロジェクト、地域再生計画、都市再生整備計画等）や、実施・検討されている各種事業・取組について把握整理する。極力民間の事業や取組も含めて整理する。

なお、本業務の前提として、以下の目的達成に向けた意識を進行上心がける。

【本業務の目的】

① 本業務により果たすべき目的

・関係人口創出の第一歩として地域住民、活動者、企業の関わりづくりを行うこと。

・多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくりを行うこと。

・多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくりを行うこと。

・みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、みんなで想像すること。

② 本業務の枠組みとして意識すべき目的

・地域再生計画「公民連携による行政課題解決に向けたイノベーション創出プロジェクト」（以下、「公民連携地域再生計画」という。）の目的達成に寄与すること。

・三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画としての目的達成に寄与すること。

③ 三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトとして意識すべき目的

・三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを加速させること。

・「まちをつかいきっているビジョン」がより実態に即した内容にアップデートできること。

・「デザインブック」がより実態に即した内容にアップデートできること。

④ 関係人口の創出で狙うべき効果

・西三河を射程にした、公民連携による三河安城の付加価値（地域サービス）の創出。

・付加価値の創出を行う、多目的交流拠点と三河安城駅周辺での活動者（地域サービスの担い手）の創出。

・活動者を支える、持続可能な付加価値提供スキーム（地域住民、活動者、企業、行政間の役割の再定義など。クラウドファウンディング、ふるさと納税等の資金調達スキームも想定）の創出。

・付加価値の創出による、三河安城駅南地区等への定住人口の誘引。

（２）本業務遂行に向けた課題と論点の整理

基本方針を検討するうえで課題を整理する。

【想定する業務構成】

本業務は、前節で示す４つの「本業務により果たすべき目的」を達成するために行う。

そのため、第一の取組要素である「**三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方**」の可視化において重要なことは、「地域住民、活動者、企業の関わりづくり」にいかにつなげていくかであり、これは、以下波及を求めるものである。

※アウトプットについては次項以降にて記述する。

※「多目的交流拠点のつかい方」とは、関係人口創出のための象徴的な仕掛けとして取り上げるものであり、これがカーボンニュートラルの取組み方、スポーツの取組み方、公共空間のつかい方としても成立する。

① 多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくり

② 多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくり

こうした「地域住民、活動者、企業の関わりづくり」を模索するために、第二の取組要素である「**つかい方ワークショップ**」に取り組む。この取組は、お互いを知り、考え、みんなで関わる機会とするものであり、活動シーン別で多目的交流拠点のつかい方を考えていくワークショップを想定する。ここでは、「多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくり」を重要視し、つかい方ワークショップにより達成したい状態を以下のとおり示す。※アウトプットについては次項以降にて記述する。

① 参加する地域住民、活動者、企業らが、「多目的交流拠点とまちをつかっていく中で、自身の役割や喜怒哀楽を分かち合いながら三河安城全体みんなで盛り上げていく当事者意識（以下、「ジブンゴト」という。)」を持ち始めること

② つかい方ワークショップの過程で参加者が知った「地域住民、活動者、企業、多目的交流拠点、まちなどの情報」、みんなで考えた「多目的交流拠点やまちをつかうアイディア」及び「多目的交流拠点やまちをつかう上での悩み」を地域に向け発信し「三河安城におけるジブンゴト」を育てること

③ つかい方ワークショップに参加していない地域住民もこの発信により「三河安城の変化をジブンゴトとして受け入れていく」素地をつくることにつなげていくこと

これらを踏まえ、第三の取組要素である「**つかい方フォーラム**」に取り組む。この取組は、「多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくり」であり、「みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、みんなで想像する」機会となるよう仕掛けるものである。参加者がつかい方ワークショップで知ったこと、考えた「多目的交流拠点のつかい方」をフォーラム形式で発露する場を想定する。つかい方フォーラムにより達成したい状態を、つかい方ワークショップに参加した人（以下、「参加者」という。）と参加していない地域住民（以下、「参加者以外」という。）に分けて以下のとおり示す。※アウトプットについては次項以降にて記述する。

① 「参加者のジブンゴト感」を「シビックプライドを帯びた行動意思」へと変える。

② 「参加者以外からの興味関心」を「より強い興味関心」へと変える。

以上が本業務で実施する内容ではあるが、「地域住民、活動者、企業の関わりづくりを強める（＝関係人口創出の本格実践)」ため、本業務で整理した検討アクションを実際の活動に落とし込み（マチナカプレイスメイキングを想定)、まち、あるいは仮想多目的交流拠点において実践を繰り返していくことを想定する。ここでは、参加者、参加者以外が以下の状態となることを期待するが、つかい方コンセプト、つかい方ワークショップ、つかい方フォーラムの実施効果により整理を変えることに支障はない。

① 「参加者のシビックプライドを帯びた行動意思」を「実際の活動」へ発展させる。
② 「参加者以外の強い興味関心」を「活動機会への参加（活動者を想定するものではない）」へと変える。

【本業務で対峙する三河安城における機会・課題】

以上の本業務構成を念頭に、本業務の枠組みとして、①公民連携地域再生計画、②三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画としての目的達成への寄与を意識すること、本業務が内包される三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトとして①三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを加速させること、②「まちをつかいきっているビジョン」がより実態に即した内容にアップデートできること、③「デザインブック」がより実態に即した内容にアップデートできることを意識し、本業務の遂行に向けた課題と論点整理を行う。

これに加え、三河安城における機会・課題として重要な論点（スポーツとまちづくり、関係人口の創出、ポストコロナのライフスタイル、都市間競争や都市間連携、まちをつかってつくる活動における位置づけ、安城市における三河安城駅の位置づけ、西三河における三河安城駅の位置づけ、日本における三河安城駅の位置づけ、エリアマネジメント、パブリックスペースの利活用、等の幅広の観点）を整理する。当該論点整理については、**企画提案の対象事項**として、企画提案書提出において必ず提案を行う。

以下に企画提案の対象事項、評価の視点について列挙する。

【企画提案の対象事項】

① 本業務全般において重要な論点とその考え方
② 本業務を進めるための共通テーマとその考え方
三河安城駅周辺で進む「まちをつかってつくる」取組や「まちをつかいきっているビジョン」、第三次安城市都市計画マスタープランにおける「みんなでまちをつかう！」及び「協創のまちづくり」を基調とし、「アリーナもまちもつかいたおせ！！三河安城をみんなで盛り上げよう！」を想定しているが、根拠を持って提案すること。
③ 「三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方」を整理する上で、かつ実際の活動として根付かせていく上で重要な論点とその考え方
④ 「多目的交流拠点の、継続的な活動に挑戦できるシーン別のつかい方を考える対話の場」を実施していく上で、かつ実際の活動として根付かせていく上で重要な論点とその考え方
⑤ つかい方フォーラムを開催する上で、重要な論点とその考え方

【評価の視点】

① 本業務における三河安城駅周辺固有の機会・課題が整理されているか。※上記①に相当。
② 上記の課題解決上有すべき視点（仮説）がよく検討されているか。※上記②に相当。
③ 目的を達成するための多目的交流拠点の情報配信方法がよく検討されているか。※上記③④⑤に相当。
④ 多目的交流拠点で仕掛ける本業務の効果について、三河安城駅周辺へ波及させるための考え方が示されているか。※上記③④に相当。
⑤ ④について、公民連携地域再生計画と一致し、また向上されるものとなっているか。
⑥ ④について、三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画（まちなかウォーカブル推進事業）と一致し、また向上されるものとなっているか。

（３）関係人口創出に向けたつかい方コンセプトのとりまとめ

つかい方コンセプトは、「三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方」のコンセプトであり、みんなで共有にすべき形（一般に言われる「ビジョン」であり、絵、文字など表現形式に制約はないもの。）に育てるための出発点として位置づけるものである。

【本業務で取り組むこと】以下の①②⑦⑧⑨

① **テーマをもって、「三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方」の整理を行うこと。**

② **つかい方コンセプトのとりまとめの中で、少なくても４つの活動シーンを設定すること。本業務立案時に検討する活動シーンを以下のとおり例示する。**

❶ 乳幼児のいる子育て世代が活動するシーン

❷ 若者世代がスポーツなどみんなで体を動かすシーン

❸ 多世代のみんなで食事をしながら談笑しているシーン

❹ オフィスワーカーがハッカソンや工作体験などのスキルで地域と関わっているシーン

③ ジブンゴトを育て、地域を巻き込む情報発信方法を設定すること。※（４）（５）提案事項

④ 活動シーン別で「つかい方ワークショップ」の参加者を募り、（４）つかい方ワークショップ（５）つかい方フォーラムを企画運営すること。※（４）（５）提案事項

⑤ 「つかい方ワークショップ」の中で、活動シーンを設定しながら多目的交流拠点のつかい方を検討（以下、「検討アクション」という。）できるように仕掛けること。※（４）提案事項

⑥ 「つかい方フォーラム」の中で、検討アクションの中から、優秀な提案（以下、「ステキアクション」という。）を選定すること。※ただし（５）提案事項

⑦ **検討アクションの共通項を重ねた、つかい方コンセプトをとりまとめること。**

⑧ **つかい方コンセプトのとりまとめに際し、少なくても以下が読み取れるよう整理すること。**

❶ 「三河安城駅周辺の、みんなで使い続けたくなるまち」のキャッチフレーズ

❷ キャッチフレーズにつながるキーワード、ストーリー

❸ 活動シーン別のキャッチフレーズ、キーワード、ストーリー

❹ 活動者が❸の活動を行っているイメージ

❺ まちと多目的交流拠点が❸の活動で連携しているイメージ

⑨ **検討アクション、ステキアクション、つかい方コンセプトをまとめた資料（以下、「つかい方ブック」という。）をとりまとめること。**

【本業務のアウトプット】

① **つかい方フォーラム、つかい方ワークショップで得た活動シーン別の検討アクション**

想定する役割：（４）（５）により、収集を図る。４程度活動シーンを想定。

② **①で評価を経て改良（もしくは補足）されたステキアクション（２提案を想定）**

想定する役割：（５）により、評価を行い２程度選定する。

③ **つかい方コンセプト**

想定する役割：（４）（５）と並行し、つかい方コンセプトのとりまとめを行う。三河安城駅周辺のマチナカと連動した、みんなで使い続けたくなる多目的交流拠点のつかい方のコ

ンセプトとして、地域住民、活動者、企業から興味関心をいかに引き出すかを意識しながら整理を行う。この整理で、つかい方コンセプトとして、少なくとも以下５点が説明できるようとりまとめを行う。

❶　「三河安城駅周辺の、みんなで使い続けたくなるまち」のキャッチフレーズ
❷　キャッチフレーズにつながるキーワード、ストーリー
❸　活動シーン別のキャッチフレーズ、キーワード、ストーリー
❹　活動者が❸の活動を行っているイメージ
❺　まちと多目的交流拠点が❸の活動で連携しているイメージ

④　**①から③を一冊にまとめたつかい方アクションブック**

想定する役割：つかい方コンセプト、検討アクション、ステキアクションをみんなで共有し、本業務の目的を達成する資料として、１冊の資料としてとりまとめを行う。

なお、以下に企画提案の対象事項、評価の視点について列挙する。ただし、本内容については、企画提案書により、より三河安城駅の実情に即した内容に変更することを期待する。

【企画提案の対象事項】

①　**つかい方コンセプトの位置づけ**　まちをつかいきっているビジョン、デザインブック、本業務で定める「つかい方コンセプト」との関係について、必ず提案すること。※【本業務で取り組むこと】①に相当

②　**つかい方の活動シーン**　乳幼児のいる子育て世代が活動するシーン、若者世代がスポーツなどみんなで体を動かすシーン、多世代のみんなで食事をしながら談笑しているシーン、オフィスワーカーがハッカソンや工作体験などのスキルで地域と関わっているシーンを想定しているが、これまでの三河安城駅周辺での活動に応じて提案すること。※【本業務で取り組むこと】②に相当

③　**つかい方コンセプトの構成**　❶「三河安城駅周辺の、みんなで使い続けたくなるまち」のキャッチフレーズ、❷キャッチフレーズにつながるキーワード、ストーリー、❸活動シーン別のキャッチフレーズ、キーワード、ストーリー、❹活動者が❸の活動を行っているイメージ、❺まちと多目的交流拠点が❸の活動で連携しているイメージつかい方アクションブックでのインタビューや本業務以降での活動化における資材提供費用の加増などを想定するが、必要に応じて提案すること。※【本業務で取り組むこと】⑦⑧⑨に相当

④　**ステキアクションに対するインセンティブ**　つかい方アクションブックでのインタビューや本業務以降での活動化における資材提供費用の加増などを想定するが、必要に応じて提案すること。

⑤　**社会実験として価値あるアウトプットを導くための創意工夫**　魅力を感じる検討アクションが検討され、つかい方コンセプトがまとまり、つかい方コンセプト作成後にも活動者が増えていくよう、提案すること。

⑥　**スケジュール**　「本業務で取り組むこと」から「本業務のアウトプット」が滞りなく作成されるよう、また参加者や提案が多く集まるよう提案すること。

【評価の視点】

以下を評価の視点とする。

①　「つかい方コンセプト」と「まちをつかいきっているビジョン」及び「デザインブック」

との関係の実現性（現在の三河安城における「つかい方コンセプト」の持つ意味とその理由）。※上記①に相当。

② 活動シーン設定の訴求力（「マチナカプレイスメイキング」、「まちをつかいきっているビジョン」、「デザインブック」など、現在の活動状況を踏まえているか、また新たな仮説に基づき定義されているか。）※上記②に相当。

③ つかい方コンセプト構成案の訴求力（つかい方コンセプトとこれをまとめる上で重要な視点が設定されているか。）※上記③④⑤に相当。

④ つかい方コンセプト作成までのスケジュールが示され、特に公募において、現在の活動者の動向などに配慮されたスケジュールとなっているか。※上記⑥に相当。

⑤ 単年度ではなく、公民連携地域再生計画（３年）や都市再生整備計画の計画期間（５年）で増幅されるようなスケジュール（行動ゴール含む）が示されているか。※上記⑥に相当。

（４）関係人口創出に向けたつかい方ワークショップのとりまとめ

つかい方ワークショップは、「多目的交流拠点の、継続的な活動に挑戦できるシーン別のつかい方を考える対話の場」であり、「地域住民、活動者、企業の関わりづくり」を模索するために取り組むものである。この取組は、お互いを知り、考え、みんなで関わる機会とするものであり、活動シーン別で多目的交流拠点のつかい方を考えていくワークショップを想定する。

【本業務で取り組むこと】

① テーマをもって、「多目的交流拠点の、継続的な活動に挑戦できるシーン別のつかい方を考える対話の場」づくりを行うこと。現段階で対話回数は７回を想定するが、設定に応じ提案してよい。

② ジブンゴトを育て、地域を巻き込む情報発信方法を設定すること。少なくとも以下が想定される。※（３）【本業務で取り組むこと】③に該当

❶ 参加者自身が保有する SNS 等での配信を、参加者が行う。

❷ 安城市が保有する SDGs 特設サイト、SNS 等での配信を、事務局及び参加者が行う。

❸ シビックプライドを醸成し関係人口創出につながるメディアでの配信を、事務局及び参加者が行う。

❹ シーホース三河など多目的交流拠点に関係する企業が保有するメディアでの配信を、シーホース三河、事務局及び参加者が行う。

③ つかい方ワークショップで、活動シーン別で「つかい方ワークショップ」の参加者を募ること。※（３）【本業務で取り組むこと】④に該当

④ つかい方ワークショップで、活動シーン別で「つかい方ワークショップ」を企画すること。企画に際しては、行動ゴールを設定することを心掛ける。少なくとも以下が想定されるが、①テーマに即しながら提案を行う。ただし、つかい方ワークショップでの議論熟度によって行動ゴールは可変であるとし、あくまで初期設定とする。なお、現段階で対話回数は７回を想定するが、設定に応じ変更してもよい。※（３）【本業務で取り組むこと】④に該当

❶ お互いを知る。

❷ 多目的交流拠点や三河安城駅周辺のまちづくり活動を知る。★

❸ 活動に協力してくれそうな企業を知る。★

❹ 自分たちが活動したいことを知る。

❺　自分たちが活動できることを考える。

❻　自分たちが活動している様子をイメージしてみる。

❼　他の活動シーンで考えていることを知る。★

❽　他の活動シーンと合わせて、共有する「まちをつかう想い」を考える。★

※★はつかい方ワークショップにおいて、小出しで情報提供していくことが予想されるため、ワークショップの主たる行動ゴールとはならないと想定する。

⑤ **ワークショップの企画運営に当たっては、行動ゴールを見据えたファシリテーションを行い、運営を行うこと。**

⑥ **「つかい方ワークショップ」の中で、活動シーンを設定しながら多目的交流拠点のつかい方を検討できるように仕掛けること。※（3）【本業務で取り組むこと】⑤に該当**

⑦ **つかい方ワークショップの参加者が果たす役割を設定すること。少なくとも以下が想定される。**

❶　つかい方ワークショップで、同じ活動をしそうな人々とつながること。

❷　つかい方ワークショップで、多目的交流拠点や三河安城駅周辺のまちづくり活動に関する情報を知ること。

❸　つかい方ワークショップで、活動シーン毎にみんなで検討アクションを考えること

❹　活動シーン毎に、自分ならどうつかうのか（どう活動するのか、活動の中でどんな役割を持つのか）を前提に、みんなで検討アクションを考えること。

❺　つかい方ワークショップやつかい方フォーラムで、参加者や地域住民向けに検討アクションを発露すること。

❻　つかい方ワークショップで話し合った、検討アクションの情報の情報を地域に発信すること。

❼　つかい方ワークショップで知った、多目的交流拠点や三河安城駅周辺のまちづくり活動に関する情報を地域に発信すること。

❽　つかい方ワークショップで知った、地域住民、活動者、企業の情報を地域に発信すること。

⑧ **つかい方ワークショップにおいて、地域住民、活動者、企業、多目的交流拠点の情報参加者が果たす役割を設定すること。**

【本業務のアウトプット】

① **つかい方ワークショップの参加者でありつかい方コミュニティ**

想定する役割：翌年度以降の活動者となる。

② **つかい方ワークショップ内での「知る、考える」過程**

想定する役割：コミュニティ形成のあり方（＝経験）として、「まちをつかってつくる」に蓄積させる。

③ **活動シーン別の検討アクション**

想定する役割：（5）で発露する。

④ **つかい方ワークショップ内で「知る、考える」過程の情報配信**

想定する役割：地域を巻き込む装置。

以下に企画提案の対象事項、評価の視点について列挙する

【企画提案の対象事項】

① **つかい方ワークショップの位置づけ**　つかい方コンセプトだけでなく、❶「まちをつかってつくる」や「自慢のまちをつくる」といったつかう.meet などの対話の場との関係、❷「デザインブック」などで進められる「まちをつくる」取組との関係、❸多目的交流拠点との関係について、必ず提案すること。※【本業務で取り組むこと】①に相当

② **情報発信の工夫**　【本業務で取り組むこと】②❶～❹を想定しているが、これまでの三河安城駅周辺での活動に応じ、コンセプトを含め提案すること。※【本業務で取り組むこと】②に相当

③ **つかい方ワークショップの実施構成**　❶参加者の募集方法、❷行動ゴールや提供すべき関連情報といった実施プロセス、❸ファシリテーション体制について提案すること。※【本業務で取り組むこと】③④⑤に相当

④ **参加者の役割**　【本業務で取り組むこと】⑦❶～❽を想定するが、必要に応じて提案すること。※【本業務で取り組むこと】⑦に相当

⑤ **社会実験として価値あるアウトプットを導くための創意工夫**　参加者が活動者に転じ、コミュニティができ、支援するコミュニティが検討され、検討アクションがなされ、地域に情報が積極的に配信されるよう、提案すること。

⑥ **スケジュール**　「本業務で取り組むこと」から「本業務のアウトプット」が滞りなく作成されるよう、提案すること。

【評価の視点】

以下を評価の視点とする。

① 「つかう.meet などの活動者の対話の場」と「デザインブックなどのまちをつくる取組との関係」及び「つかい方コンセプト」との関係の実現性（現在の三河安城における「対話の場」や「必要な機能実装に向けた動き」への作用とその理由）。※上記①に相当。

② 地域を巻き込む情報配信の訴求力※上記②に相当。

③ つかい方ワークショップの実施構成案の訴求力（何を大切にしたワークショップであるのか。）※上記③に相当。

④ 参加者の持つ役割の訴求力※上記④に相当。

⑤ つかい方ワークショップのスケジュールが示され、現在の三河安城の動向などに配慮されたスケジュールとなっているか。※上記⑥に相当。

⑥ 単年度ではなく、公民連携地域再生計画（３年）や都市再生整備計画の計画期間（５年）で増幅されるようなスケジュール（行動ゴール含む）となっているか。※上記⑥に相当。

（5）関係人口創出に向けたつかい方フォーラムのとりまとめ

フォーラム型コンペは、「（3）つかい方コンセプトのとりまとめ」で検討アクションから優秀アクションを抽出する作業、ならびに「（4）つかい方ワークショップのとりまとめ」でつかい方ワークショップにより活動シーン別でとりまとめた検討アクションについて、フォーラム形式及び公開発表を実施し、「多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくり」、「多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくり」、「みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、みんなで想像する場づくり」を効果的に進め、三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを加速させる社会実験として開催するものである。

つかい方フォーラムの進め方は、企画提案書により、より三河安城駅の実情に即した内容として提案されることを期待する。

【本業務で想定する取り組むこと】

① **つかい方フォーラムのテーマを設定すること。なお、ジブンゴトを育て、地域を巻き込む情報発信となるよう設定に努める。※（3）【本業務で取り組むこと】③**

② **つかい方ワークショップに向け、キックオフイベント、検討アクションの発露及び優秀アクション選定の概ね２機会をフォーラム形式で行うこと。※（3）【本業務で取り組むこと】④⑤**

③ **フォーラム形式で行うイベントについて、以下が果たされるよう、話題提供やパネルディスカッションなどを行うこと。**

❶ 関係人口創出（地域住民、活動者、企業の関わりづくり）につながること。

❷ 多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくりにつながること。

❸ 多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくりにつながること。

❹ みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、みんなで想像できるようになること。

❺ つかい方プロジェクトが「まちをつかいきっているビジョン」や活動者の対話の場とつながるしかけとなること。

❻ つかい方プロジェクトが「デザインブック」や三河安城駅周辺での機能実装につながるしかけとなること。

④ **優秀アクションの選定を行うこと。本仕様ではデザインコンペ in 三河安城における審査員審査又はオーディエンス審査のいずれかを想定するが、企画提案内で提案いただくものとする。※（3）【本業務で取り組むこと】⑥**

⑤ **キックオフイベントとしてのフォーラムの進行イメージを、以下のとおり例示する。**

❶ **開会の挨拶**…安城市関係者より挨拶を想定する。三河安城駅周辺のまちづくりの動向を踏まえた、今回の取組趣旨説明を想定する。

❷ **登壇者の紹介**…キックオフイベントとして「まちをつかってつくる」の理解を深める話題提供（事例紹介を想定）、話題提供に基づくパネルディスカッション、デザイン部門／プレイアブルプレイス部門公募の趣旨説明、公募部門提案アイディア出しも含めたフリートークなどを想定。これに登壇する有識者を紹介。なお、ここでの有識者が、公開プレゼン審査における審査委員であることが望ましい。必要に応じて審査時の MC 紹介を想定する。

❸ **多目的交流拠点の理解を深める話題提供**…株式会社アイシン及びシーホース三河株式会社を想定。

❹　**「まちをつかってつくる」の理解を深める話題提供（事例紹介を想定）**…審査員やデザインコンペ in 三河安城等で三河安城に向き合った学識経験者を想定。

❺　**話題提供に基づくパネルディスカッション**

❻　**つかい方ワークショップの趣旨説明**…目的、活動シーン、応募の仕方、ワークショップで実施すること、つかい方フォーラム、本業務以降の活動への転じ方（進め方）等の説明を想定する。

❼　**活動シーンやアイディア出しも含めたフリートーク**…登壇者視点で活動シーンやアイディア出しを含めたアイディアをフリートークで提供いただく。

❽　**閉会の挨拶**…安城市関係者より挨拶を想定する。

⑥ **検討アクションの発露及び優秀アクション選定を含むつかい方フォーラムの進行イメージを、以下のとおり例示する。**

❶　**開会の挨拶**…安城市関係者より挨拶を想定する。三河安城駅周辺のまちづくりの動向を踏まえた、今回の取組趣旨説明を想定する。

❷　**審査委員の紹介**…必要に応じて設定。

❸　**審査委員長の挨拶…**必要に応じて設定。

❹　**審査方法等の説明**…審査の流れ、審査方法、本コンペを踏まえた今後の進め方等の説明を想定する。

❺　**活動シーン別のプレゼン**…１提案６分（発表２分、質疑３分、準備１分）×８作品程度を想定する。

❻　**オーディエンス審査**

❼　**表彰式**…２提案の代表者より一言。

❽　**プレゼン審査の総評**…安城市関係者より挨拶を想定する。今回の取組を踏まえた今後の進め方等について説明

❾　**閉会の挨拶**

以下に企画提案の対象事項、評価の視点について列挙する。

【企画提案の対象事項】

① **つかい方フォーラムのテーマ設定**

（３）（４）を基に、つかい方フォーラムを行うキーワードを提案すること。※【本業務で想定する取り組むこと】①に相当

② **つかい方フォーラムの機会設定**

【本業務で想定する取り組むこと】②⑤⑥とするが、必要に応じて提案すること。

③ **つかい方フォーラムで行う話題提供機能の設定**

【本業務で想定する取り組むこと」③を基に、取組の方向性、取組みの例示を提案すること。

④ **三河安城駅パワーアップ再生プロジェクトの加速化効果**

以下のとおり例示するが、必要に応じて提案すること。

❶関係人口創出（地域住民、活動者、企業の関わりづくり）にどうつなげるか。

❷多目的交流拠点と地域住民、活動者との関係づくりにどうつなげるか。

❸多目的交流拠点とまちを一体的に考えるきっかけづくりにどうつなげるか。

❹みんなで多目的交流拠点をつかうイメージを、どうみんなが想像できるようにするのか。

❺つかい方ワークショップが「まちをつかいきっているビジョン」や活動者の対話の場とど

うつなげていくのか。

❻つかい方プロジェクトが「デザインブック」や三河安城駅周辺での機能実装にどうつなげていくのか。

⑤ **社会実験として価値あるつかい方フォーラムを導くための創意工夫**

本取組では、参加者が多く集まり、さらに地域住民、活動者、企業の関わりがつくられることが求められる。多くの人につかい方フォーラムに興味を持ってもらえる発信方法などについて、必ず提案すること。

⑥ **審査の設定**

【本業務で想定する取り組むこと】④を基に、人数、選定の方向性、構成を想定する審査員の例示、各審査における公募者とのかかわり方について、提案すること。

⑦ **活動者（つかう.meet やつかう.meet の共同活動）との連携**

必要に応じて提案すること。※【本業務で想定する取り組むこと】③に相当

⑧ **三河安城駅周辺の機能実装との連携**

必要に応じて提案すること。※【本業務で想定する取り組むこと】③に相当

⑨ **企業（ステークホルダー）を巻き込む考え方**

必要に応じて提案すること。※【本業務で想定する取り組むこと】③に相当

⑩ **スケジュール**

【本業務で想定する取り組むこと】で求められる事項が滞りなく実施されるよう、また参加者や提案が多く集まるよう提案すること。

【評価の視点】

以下を評価の視点とする。

① 運営方法が創意工夫に満ちているか（多くの地域住民、活動者、企業につかい方ワークショップに参加を働きかける工夫、活動者・つかう.meet・つかう.meet の共同活動、まちの機能実装との連携に関する提案、ステークホルダーとの連携に関する提案）。

② 審査の枠組みが明確に提案されているか（広く若しくは三河安城の現状に合致した審査について提案でき、かつコネクションを有し、審査に参画いただける確実性を有するか）。

③ つかい方フォーラムのスケジュールが示され、現在の活動者の動向などに配慮されたスケジュールとなっているか。

④ 単年度ではなく、公民連携地域再生計画（３年）や都市再生整備計画の計画期間（５年）で増幅されるようなスケジュール（行動ゴール含む）となっているか。※上記⑥に相当

（６）報告書作成

上記（１）～（５）をとりまとめた報告書を作成する。

（７）打ち合わせ協議

打合せは業務着手時、中間（６回）、成果品納入時の計８回を予定しているが、業務の進捗状況に合わせ、必要に応じて適宜実施するものとする。

また、打合せ後は速やかに打合せ議事録を作成し、発注者に了承を得て、業務に手戻りが生じないようにする。

５．成果品

項　目	サイズ	成果品数		
(１)報告書	Ａ４版		２部	原稿一式
(２)打合せ記録簿	Ａ４版		１部	原稿一式
(３)電子データ		DVD又はCD-ROM		一式

＊電子データの形式は、作成元ファイルと PDF ファイルとする。図面の作成にあたり GIS を使用した場合は、作成元ファイルのほかに MXD ファイル及び PDF ファイルを提出すること。設計において CAD データを使用した場合は、以後の設計・整備に支障がないよう、DWG ファイルおよび積算資料を提出すること。

６．管理技術者、照査技術者、担当技術者

（１）管理技術者

管理技術者は、本業務の履行にあたり、本市が実践する協創のまちづくりに類似した業務の実施経験者であり、日本語に堪能でなければならない。

管理技術者は、下記の業務実績をそれぞれ１件以上有していること。

① 官公庁発注のエリアマネジメントに関する業務実績
② 官公庁発注の都市計画マスタープランの策定に関する業務実績
③ 官公庁発注の都市計画分野におけるまちづくりに寄与する社会実験の支援に関する業務実績
④ 官公庁発注の都市計画分野におけるプラットフォームづくりに関する業務実績

（２）照査技術者

照査技術者は、本業務の履行にあたり、本市が実践する協創のまちづくりに類似した業務の実施経験者であり、日本語に堪能でなければならない。

照査技術者は、下記の業務実績をそれぞれ１件以上有していること。

① 官公庁発注の発注されたエリアマネジメントに関する業務実績
② 官公庁発注の都市計画マスタープランの策定に関する業務実績
③ 官公庁発注の都市計画分野におけるまちづくりに寄与する社会実験の支援に関する業務実績
④ 官公庁発注の都市計画分野におけるプラットフォームづくりに関する業務実績

（３）担当技術者

本業務における主たる担当者は、本業務の履行にあたり、業務目的にある「活動」や「対話」等のコーディネートに関する業務経験を有し、本市が実践する協創のまちづくりに類似した業務の実施経験者であり、日本語及びプレイスメイキングなどの「まちをつかう」取組に堪能でなければならない。

担当技術者は、下記の業務実績をそれぞれ１件以上有していること。

① 官公庁発注のエリアマネジメントに関する業務実績
② 官公庁発注の都市計画分野におけるプラットフォームづくり関する業務実績

７．その他

（１）この仕様書に定めのない事項については、別途監督員と協議するものとする。

（２）成果品引渡し後においても、成果品の修正等の必要が生じた場合は速やかに対処しなければ

ならない。

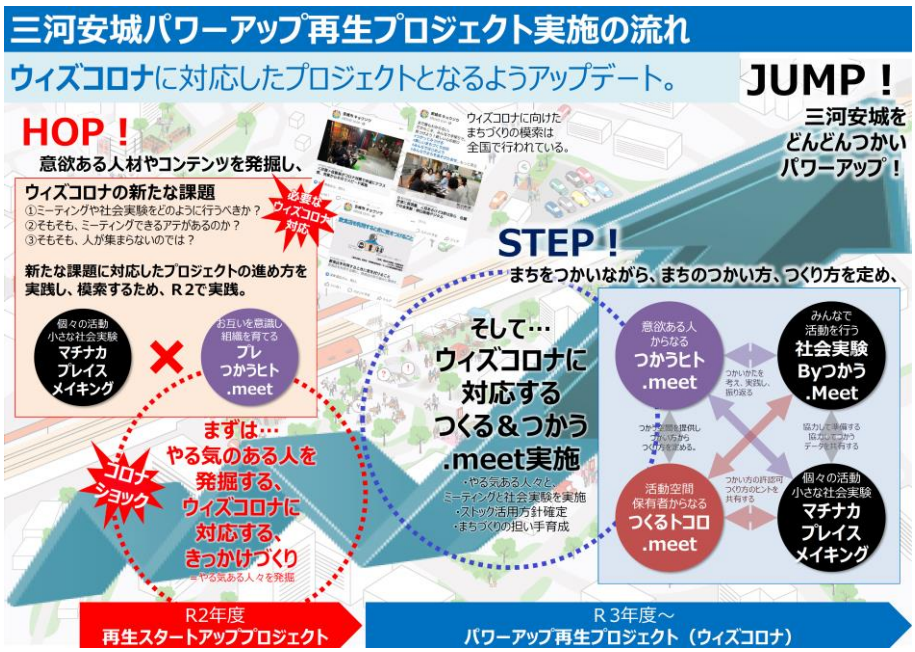
（３）本業務に用いる考え方及び計算手法等については、その根拠を明確にするとともに、使用した文献についても報告書に明記するものとする。

（４）その他、本業務の遂行にあたり疑義が生じた場合は、監督員と協議し決定するものとする。

８．用語の解説

（１）三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト

三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト（以下、「MAPP」という。）は、三河安城駅周辺の現状を、「まちをつかって、まちをつくる」取組を進め、三河安城駅周辺をパワーアップさせるものである。MAPP で理想とするみんなが「まちをつかいきっている」状態＝ビジョンを下図に示す。ハードがどう変わるかではなく、このまちでのヒトがどう変わるかを重視したものであり、まちはヒトが中心であることを宣言するビジョンである。なお、先に示したまちのつかい方の裏返しとなる「活動をより豊かにする場合にあったらよい機能」が、MAPP において実装していく機能である。まちをリノベーションする前に、深い理解もなく、肌身に感じる体験もしない中で汎用的なビジョンを委託してつくるという、過程や方法なぞ、どうでもよいのだ！といわんばかりの官主導のビジョンではない。よって、「まちをつかってつくる」取組を進めるためには、実際に使っていく本プロジェクトの主役（＝地域の活動者）がいかに活動しやすいか、お互いにつながりあえるかがカギである。そこで、本市はこの活動と対話の機会を創出するべく、できることからスタートした取組である。



（２）地域再生計画「公民連携による行政課題解決に向けたイノベーション創出プロジェクト」

地方創生として目指す将来像は「みんなでつくる住みたい、住みつづけたいまち」である。本市は国内随一の自動車生産拠点を形成する地域にあり、トップメーカーを頂点としたピラミッド型の産業構造に属する大中小様々な企業が集積している。そのため、安定した雇用や労働環境にも恵まれている。また、リニア中央新幹線が開業することにより、東京から６０分圏域となり、観光交流の増大や企業の進出などさらなる発展の可能性を秘めている。一方、本市においても超高齢社会の到来や、人口減少局面を迎えることが予測され、産業面においても本市の基幹産業で

ある自動車産業が１００年に１度と言われる大変革期を迎え、新しい局面を迎える。また、大規模災害への懸念、社会インフラの老朽化に加え、新型コロナウイルス感染症対策、それに伴う市民のライフスタイルの変化など、近年地方自治体を取り巻く状況が大きく変化しており、行政が解決すべき課題が複雑化・多様化している。そのため、従来通りの行政単独での取組みだけでは対応が困難な状況となっている。こうした時代の流れを捉え、本市では本交付金で、民間企業等の有する資源やノウハウを活かすための公民連携のまちづくりを進めることで、地方版総合戦略の基本目標である、市民と共につくる持続可能なまち、「健やか」「幸せ」を意味する「ケンサチ（健幸）」なまちづくりを推進することとしたのが、地域再生計画「公民連携による行政課題解決に向けたイノベーション創出プロジェクト」である。

本計画では、【共創パートナー制度による公民連携の強化】として「❶共創パートナー制度の運用」（　民間企業等の力を最大限活用するためには、民間企業の資源やノウハウ、連携を希望する内容（＝民間シーズ）を把握することが必要となるため、まずは安城市と地元金融機関とともに仮想事務局を設置し、SDGｓをきっかけに連携できる企業・団体にパートナーとなってもらう。）、「❷ポータルサイトの作成による情報発信」（公民連携に関する情報を収集し、包括的に発信する公民連携ポータルサイトを創設する。市内の高校生が民間企業等の取組みを学ぶ機会として、学生が取組みを取材し、学生ならではの視点を生かした記事を作成し、同ポータルサイトに掲載する。）、「❸公民連携による行政課題解決の実施」（行政課題を選定、ブラッシュアップし、スタートアップ企業等と市職員が一緒になって課題解決をするという手法を学ぶため、１年目は全ての工程を委託して行い、数年かけて委託の工程を減らしていくことで、最終的には市職員のノウハウにより、マッチングを行い、新たな公民連携事業を創出する。）、「❹未来会議の開催」（公民が相互の希望や連携の可能性を図るため、ワークショップやフォーラムを開催する。）を進めていく。そして、【公民連携によるまちの賑わい創出】として、　共創パートナー制度による行政課題解決が具体的に起きている問題に対する対策になるが、まち全体が居心地のよく、賑わっている状態を持続させるため、活動者を育て、活動に対する伴走支援を行うこととしている。ここには、「❶つかい方ワークショップ」（新しく建設される予定の多目的交流拠点を活動場所と想定し、つかい方コンセプトをワークショップ形式で考える。社会実験の場を、建設予定地の近くに用意し、社会実験の企画実施まで行う。本業務のことである。）、「❷みらいを考える講演会、フォーラム」（活動者同士の連携や、市民の理解を深めるとともに、活動における機運を醸成するため、講演会やフォーラムを開催する。）、「❸公民連携プロジェクト（経済効果に配慮した地域ニーズ解決の実施）」（企業、地域住民等による対話や活動により得た地域固有のニーズを発掘し、地域に関わる企業、学校、行政が一緒になって解決する機会を創出する。活動等で得たデータをもとにニーズを抽出することにより解決策を実践し、地域経済に与える影響を算定しながら、新たな地域サービスを創出する。）といった事業に公民連携で取り組むこととしている。

また、本計画における、自立性、公民連携、地域間連携、政策間連携の視点で以下を補足する。

自立性にあっては、１年目は、市が主導となり、持続可能なまちづくりに関わる活動者や活動・協力団体を募り主に「対話」を行うが、２年目は「共同活動」も行いながら関係性を強め、３年目からは自主的に活動できるような仕組みづくりを行う。３年目を目途に都市再生推進法人を育て、その法人を中心に自らで活動を進めるような形へもっていく。

公民連携にあっては、今回の活動の場の一つとなる多目的交流拠点は民間事業で造られるものであり、民間の場所を使って団体や市民がまちづくりを行っていくものである。また、共創パートナー制度は、持続可能なまちづくりに貢献する活動を主体となって行う事業者、団体の集まり

であり、そこでの自主性を高めてまちの賑わいを創出していく。官民から始まり、民と民によるまちづくりの新しいイノベーションが起こすきっかけとする。

地域間連携にあっては、民間事業として設置される多目的交流拠点は、新幹線駅の近くということもあり、本市だけでなく西三河の拠点となる。そのため、本市だけでなく、西三河の賑わい創出にもつながるよう、他市も巻き込んで社会実験（共同活動だけでなく個別活動も想定）を行う。

政策間連携にあっては、社会実験の場となる三河安城駅周辺は、新しいまちづくりのモデル都市に選定されたウォーカブル推進事業の対象地域であり、すでに民間事業者と連携し、まちを使い続けられる仕組みや空間の形成を図っている。本事業では、まちを活性化するためには、空間だけでなく建物などの場所も必要だと考え、場所をつかう担い手や、方法を生み出す事業を行う。

（３）三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画

三河安城駅周辺において、協創のまちづくりである「まちをつかってつくる」を仕掛けるアクションプラン。大きく３つの目的からなる都市再生の取組であり、❶つかう：パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成、❷つくる：ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成、❸集まる：マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成、がこれに当たる。

取組むべき課題として❶都市施設の陳腐化、❷活動するしくみ、❸滞在ニーズと都市機能のギャップ、❹活動ニーズと都市機能のギャップの４点を設定し、活動者、就労者にとって「居心地よく滞在できる」マチナカを形成していくものである。この形成過程において、まちをつぶさに観察し、関係者と対話し、活動し、まちの反応を見る「対話」と「活動」を重視する取組であり、深い理解を重視したＯＯＤＡループの仕掛けが特徴である。活動上必要な機能実装を社会実験として実施し、本格実装の道筋をつくる取組を行う人間の活動ありきの伴走支援型整備計画であり、まちへの深い理解を歩いて得ることから、結果としてウォーカブルな取組とされる。

（４）新しいまちづくりのモデル都市

内閣府、国土交通省に認定される取組。「まちをつかってつくる。ヒト、公共空間、データを活用し、居心地よく滞在できる三河安城へ。」をテーマとし、まち全体で稼ごうとする意欲の向上を目指し、複数の民間団体が行った社会実験にて得られたデータ（活動データ/オープンデータ/３Ｄ 都市モデル）を共有し、データ上で更に必要と判断される機能等を公共空間に追加していくことで官民が連携してゆとりとにぎわいある都市空間を創出するアクションプランとして設定。オープンスペース（街路空間、公園緑地）の充実、遊休ストックの活用、情報通信基盤設備の設置・データ活用・新技術を用いたサービス提供、収集データを公表し住民のまちづくりに対する意欲向上を実施するもの。

（５）ＳＤＧｓ未来都市

内閣府に認定される取組。「安城ならではの公民連携によるウェルビーイングな脱炭素社会の実現」をテーマとし、「おかねで地域が生まれ、まわるまち」、「人が参加し、支え合うまち」、「資源、エネルギーが循環するまち」を目指し、経済、社会、環境の三側面で持続可能

な開発目標を設定（「地域の伝統と革新の融合による新たな地域内経済循環を創出するまちの実現」、「市民・事業者・行政の共創により実現する日本一住みやすいまちの実現」、「地域特性をベースに、資源を余すことなく活用するまちの実現」）し、公民連携（公民共創）の仕組みを活用しながら、最新技術の活用も視野に入れたDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、以下の３つを実現しながら、その構築を図っていく。その中で、中心的なしくみとして稼働するのが、「あんじょうＳＤＧｓ共創パートナー制度」である。

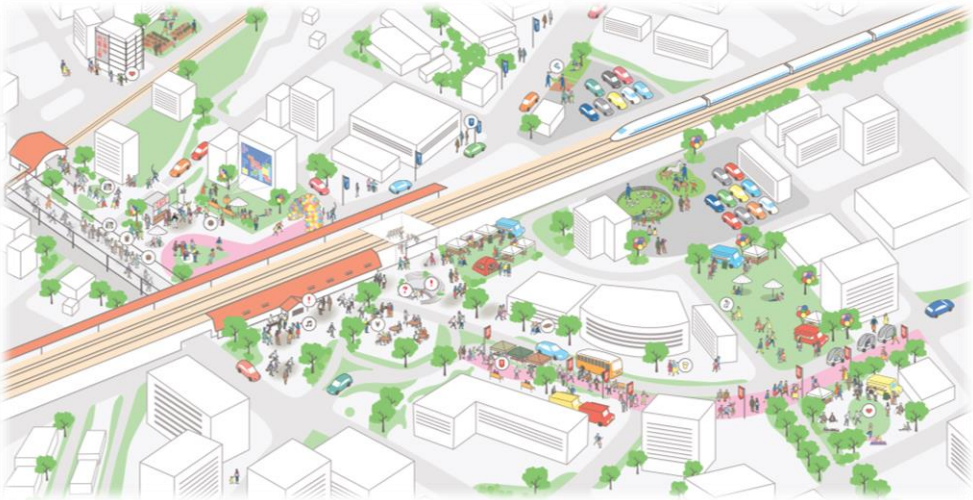
★「まちをつかう」プレイヤー視点での用語

（1）マチナカプレイスメイキング

令和２年度に、公共空間をつかったまちなかのポテンシャルを確かめる制度として設定。まちへの課題意識を保有するスキルで解消しようと企画する活動者に対して、まちなかの公共空間使用の申請窓口を一元化し、使用料でなくエリア価値の向上に資する活動「データ」で支払う仕組みとして運用。都市再生推進法人への業務移行を念頭におき、申請等業務についてはウェブフォーム及び GAS を用いて可能な限り自動化している。三河安城駅周辺で民間まちづくり活動が始まるきっかけとなり、現時点で当初の目的を大幅に超えるまで発展した。なお、団体の困り事（スケジュール管理、発信の仕方、データ収集等）があれば、困り事に対応する専門家を呼んで勉強するキョウソウミーティングも同時に運用している。

（2）つかいきっているビジョン

三河安城駅周辺で定める「まちをつかってつくる」取組におけるビジョン。ビジョンにも段階があると思料するが、本地域では、まちで活動する人を増やすフェーズであると考え設定した。そのため、「まちをつかっていない状況における、まちをつかいきっているビジョン」が正しい状態である。このビジョンは、公共空間、民間空間もとにかくつかいきる。今あるまちを余すことなくつかいきることを期待するものであり、表現されるこの活動一つ一つを試して、まちとの相性を見てみることを想定する。その上で、活動でまちと相性がよいものを残し、伸ばしていくことを想定する。そして活動を深堀し、活動が現状より高度に仕掛けることが地域のニーズ上も求められると判断できる場合に、活動上必要となるまちに実装すべき機能が見える化できると考える。こうした意味で、このビジョンの持つ意味は、単に「まちをつかいきっているビジョン」にとどまらず、まちを豊かにつかいつづけたくなるための、機能実装の可能性・方向性の出発点となるイメージともいえる。



（3）つかう.meet

三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを進めるにあたって軸となる行動主体の一つであり、令和２年９月に活動者の発意で結成された組織。「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」、「三河安城まちかどネットワーク link」、「特定非営利活動法人 Mieru-Da Project」、安城市役所有志及び三河安城駅周辺の有志で構成される。

つかう.meet は、三河安城駅周辺でマチナカプレイスメイキングに取り組む活動者（以下、「つかう.meet プレイヤー」)、組織の運営者（以下、「つかう.meet 運営者」という。）を中心とする組織として活動していくことを想定し、その活動は会議、活動者における共同活動（（３）つかう.meet 主体の社会実験）である。

ここで、活動のうち「会議」とは、つかう.meet プレイヤーがもつまちへの考え方・思いを見える化し、相互につながる機会、新たな気づきを共有する機会、コラボレーション活動へとつながる機会、まちに必要な機能を検討する機会として機能することを期待する。この運営は、現在一定の形式によらないざっくばらんな会議形態であるが、今後はこの継続に加え、後述する共同活動（つかう.meet プレイヤー相互の人間関係の構築に際し、まちでの共同活動（芝張りやベンチづくりなどを想定)）などの実施も視野に入れる。

つかう.meet 運営者は、「会議」の開催にあたって、「まちへの考え方・思い」をまとめるため、必要に応じ、その時々の課題に見合う専門家を招聘し、開催の目的が果たされるよう運営している。

なお、国土交通省が創設し、都市における種々の課題解決や良好な環境の創造、地域の価値向上を図る先導的な取組、新技術を活用した先進的な取組、従来に無いアイディアによる魅力的な取組など、まちづくりのあらゆる取組の中から特に優れたものを表彰する「まちづくりアワード」において、第一回の計画構想部門において、「オープンデータなどを活用した課題分析やニーズ把握を踏まえ、実験的な取組を先立って展開することにより、柔軟性や機動性の高い計画づくりを進めるなど、事業化への実現性が高く評価」され、特別賞を受賞している。

特別賞

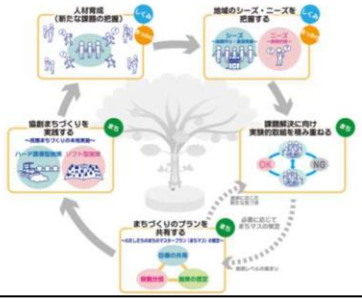
つかう. meet

◆所　在　地：愛知県安城市

◆取組名称：MAPP（まちをつかってつくる！三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト）
※三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画

◆活動概要：三河安城駅周辺において、「まちをつかってつくる」という順序により既存のまちのポテンシャルを最大限に引き出すことに加え、オープンデータを活用した地域課題の分析など、地域のエリア価値向上の取組を推進しています。

◆選定理由：オープンデータなどを活用した課題分析やニーズ把握を踏まえ、実験的な取組を先立って展開することにより、柔軟性や機動性の高い計画づくりを進めるなど、事業化への実現性が高く評価されました。



▲つかう. meetの会議風景

（4）デザインコンペin三河安城

令和４年度に「みんなでつかいたおせ」～定刻通りに通過させない多目的交流拠点（アリーナ）を活かした協創のまちづくり～をテーマとして三河安城駅周辺における「市民とともにまちをつかってつくる協創のまちづくり」の実現に向けみんなで大好きなまちをつかいたおすアイディアを求めた。

本コンペでは提案者から応募があったアイディアを基にこれからの議論の出発点となる「デザインブックVol.0」作成するほか新たなプレイヤーの発掘も目的とした。

本コンペでは、中長期的に実現を目指すビジョンで「みんなでつかい続けたくなるまちづくりコンセプト」となるアイディアを募集した「まちのデザイン部門」、４年後に実現を目指す実践型のプロジェクトでまちをつかう活動を引き出す仕掛けとなる実現性が伴った設計提案を募集した「場のデザイン部門」、短期的に実現を目指す実践型のプロジェクトでまちの新たな魅力や価値を生み出すまちをつかう提案を募集した「まちをつかう部門」、の３部門でアイディアを募集した。その結果３部門で５２件の多くの応募があった。

令和４年度に「デザインブック Vol.0」を作成し、デザインコンペの応募者を新たなプレイヤーとして発掘することができた。また、まちをつかう部門で提案があった新たなプレイヤーの活動の第一歩の伴走支援をした。

★「まちをつくる」ステークホルダー・スキルホルダー視点での用語

（1）まちづくりにおける連携協力に関する協定（マチナカプレイスメイキング 2.0）

令和２年度に創設した制度。三河安城駅周辺は、公共空間だけでなく、セットバックされた「つかえる民地空間」も多く存在する。これは広く豊かな歩道空間を確保するために行ったものであるが、同時に活動地として使い勝手もよいミクストユースな空間（＝ミクストスペース）として、ミクストスペースをマチナカプレイスメイキングの対象空間とする協定を締結し、その運営を行っている。現在は三河安城駅南口のホテルグランドティアラ安城内の敷地のみであるが、活動ニーズに応じて地権者と相談し、協力者を増やしていくよう目論んでいる。

（2）まちづくりにおける連携協力に関する協定（マチナカプレイスメイキング 3.0）

令和３年度に創設した制度。本地区は、駐車場整備地区でもあり、駐車場附置義務条例に基づき店舗等に駐車場の設置が進んでいる。ただ、常時稼働しておらず、みなし低利用地となっている。マチナカプレイスメイキングを進める中で、「店舗の駐車場等をまちの自慢づくりに使えないか」と、地域のステークホルダーから受けた相談をきっかけに、こうした公共空間に接続する民間駐車場等のスペース（＝オープンスペース）は、店舗を目的地とする人々のサードプレイスにもなり、かつ使い勝手がよい空間であるとして、協定制度によってマチナカプレイスメイキングの対象空間にしていくしくみを創設した。本協定は 12 月に締結したため実績はない。これから、実際につかえる空間なのか、マーケットがわかる取組ができるのか、まさに公民連携で試していくための連携手法である。

（3）新しいまちづくりの構築に向けた連携に関する協定（実装型）

令和３年度に創設した制度で、民間の稼ぐ力を活用する、シーズ・ニーズ把握の強化を目的するもの。シーズ・ニーズ把握の強化のため民間とタイアップして地域ニーズ機能（❶公共空間に地域のニーズ機能を実装、❷ニーズ機能継続配置のため収益事業を実施、❸❶❷のログデータを

人流／マーケット情報として収集・公表）の設置するものであり、一定期間継続実施していくため行政／事業者と協定を締結し、社会実験として実施するもの。つかう.meet が開催した社会実験型イベントのニーズ調査結果に呼応した事業者からの機能実装提案に基づき制度化。現在２社と協定を締結している。

（４）新しいまちづくりの構築に向けた連携に関する協定（サポート型）

令和３年度に創設した制度で、民間の稼ぐ力を活用する、人材育成（活動者の発掘）の強化を目的するもの。人材育成強化のため、民間とタイアップして地域ニーズ機能（❶活動者が必要とする活動データの収集を支援、❷活動者の活動をより豊かにする機能を提供、❸❶❷協力のため社会実験にも参画、❹❶❷❸のデータをマーケット情報として収集・公表）の提供を行うものであり、一定期間継続実施していくため行政／事業者と協定を締結し、社会実験として実施するもの。マチナカプレイスメイキング運用上の課題だった「活動データの安定した取得」となれないデータ収集作業の合理化により「活動そのものの質的向上」を目論むべく制度化。現在３社と協定を締結している。

（５）あんじょうＳＤＧｓ共創パートナー

安城市と碧海信用金庫が連携し、ＳＤＧｓの裾野を広げるとともに、公民連携及び民民連携の促進を図り、新たな価値を創造するべく創設した制度。令和３年１０月に設立した本制度は、「活かしあうしくみづくり」「自発的につながる場づくり」を進めるべく、しくみづくり（行政・企業問わず、自らが保有するスキル、ノウハウを社会に活かすこと）、対話による関わりづくり（相互の意志疎通を行い、お互いのスキル、ノウハウ、社会価値を知ること）、活動による関わりづくり（企業単独あるいは相互連携により社会で活動を行うこと）、共通目的づくり（活動の際にＳＤＧｓを意識し、安城市におけるＳＤＧｓの達成＝持続可能な安城市をみんなで取り組むこと）に取り組んできた。

三河安城にあっては、活動者の集いであるつかう.meet や活動者に対し、その活動が持続可能となるよう企業のスキル・ノウハウ・ストックがマッチングしていくきっかけを生むことを念頭に、つかう.meet.異業種交流会を実施している。

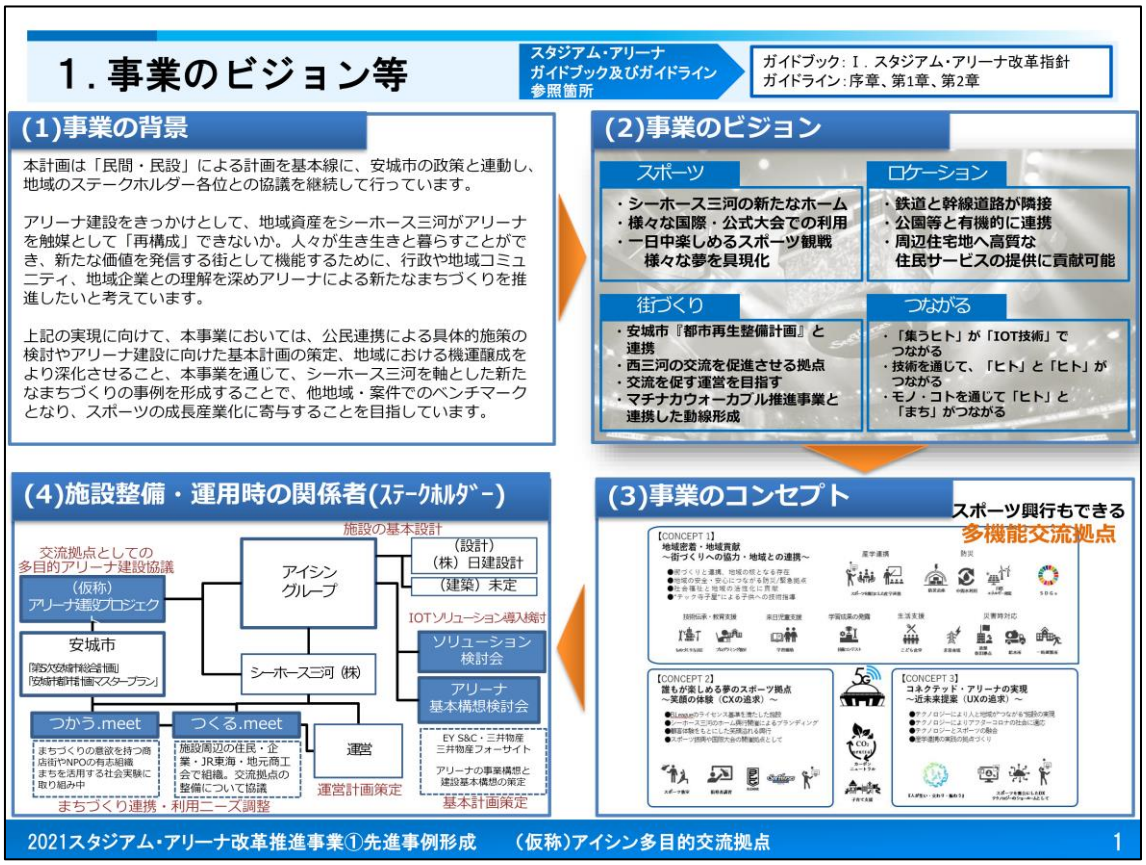
現時点で登録企業は１９０社を超え、事務局機能の強化、実務の効率化・自動化による企画運営力の向上、活動発露機会の創出など、持続可能なステークホルダー型プラットフォームづくりを進めている。

（６）多目的交流拠点

多目的交流拠点は、株式会社アイシンが建設を計画するプロバスケットボールチーム「シーホース三河」の本拠地であり、地域の交流拠点ともなる施設。本施設の建設運営計画は、「民間・民設」による計画を基本線に、本市の政策と連動し、地域のステークホルダー各位との協議を継続して行っている。アリーナ建設をきっかけとして、地域資産をシーホース三河がアリーナを触媒として「再構成」できないか。人々が生き生きと暮らすことができ、新たな価値を発信する街として機能するために、行政や地域コミュニティ、地域企業との理解を深めアリーナによる新たなまちづくりを推進したいと考えている。

上記の実現に向けて、本事業においては、公民連携による具体的施策の検討やアリーナ建設に向けた基本計画の策定、地域における機運醸成をより深化させること、本事業を通じて、シーホ

ース三河を軸とした新たなまちづくりの事例を形成することで、他地域・案件でのベンチマークとなり、スポーツの成長産業化に寄与することを目指している。※本稿は「スタジアム・アリーナ改革推進事業①先進事例形成」掲載内容を転記したものである。



（7）公益的機能とアンケート調査結果

公益的機能は、平たく言えば「地域のためになる機能」である。三河安城駅周辺においては、第三次安城市都市計画マスタープランにおいて誘導すべきとしている「広域的交流施設（西三河地域で関係する人々の相互交流を目的とし、西三河地域の活性化の拠点として文化・交流等の都市活動・コミュニティ活動を支える機能）」が該当する。ここでの交流とは、総合計画で大きく示される「こども」「きずな」づくりに資する機能と思料する。民間事業者で計画される「多目的交流拠点」は、こうした公益的な機能が提案され、関係人口創出のために地域でその機能が発揮されることが期待される。

こうした交流する機能については、交流の主体となる多世代の市民、事業者がどのような交流を望んでいるのか、また地域のためになる交流の形と捉えているかは不明であった。そのため、市民、事業者を対象に、三河安城駅周辺における公益的機能「交流する機能」について、どんなニーズを持っているのかアンケート調査を実施した。このアンケート調査により、「どのような交流が地域のためになる」のか想定でき、これに基づき「多目的交流拠点をつかう活動シーン」が推定できると考える。

★アンケート概要

	調査１	調査２	調査３
出展	総合計画「市民アンケート」	総合計画「中学生・若者アンケート」	総合計画「事業者アンケート」
アンケートの目的	第9次安城市総合計画策定にあたり、広く市民からの意見や要望を聞き取り、計画づくりに活用することを目的として実施したものである。	第9次安城市総合計画策定にあたり、次世代を担う若い世代からの意見や要望を聞き取り、計画づくりに活用することを目的として実施したものである。	第9次安城市総合計画策定にあたり、市内事業者からの意見や要望を聞き取り、新たな計画策定のための基礎資料として活用することを目的として実施したものである。
対象	安城市在住の18歳以上の市民（無作為抽出）	①安城市在住の中学生（２学年）1,913人 ②安城市在住の16歳～18歳1,000人を無作為抽出	安城市内の事業者 安城市商工会議所会員事業者（無作為抽出）
調査方法	郵送よる配布・回収、ウェブサイトによる回答	①中学生　入力フォームチラシを学校配布、オンライン回答 ②16歳～18歳の若年層　入力フォームチラシを郵送よる配布、オンライン回答	アンケート（入力フォーム入り）を郵送よる配布、オンライン回答
調査期間	令和4年7月15日（金）～8月5日（金）	令和4年10月25日（金）～12月5日（月）	令和4年12月5日（月）～12月19日（月）
調査対象	3,000票	①1,913票 ②1,000票	300事業者
回答数（回収率）	943票（31.4％）	①1,174票（61.4％） ②123票（12.3％）	119票（39.7％）

★アンケート設問

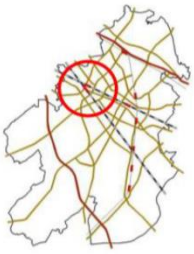
①市民アンケートにおける設問

問 13　安城市では、ＪＲ安城駅、ＪＲ三河安城駅、名鉄新安城駅、名鉄桜井駅の４つの拠点を核として魅力ある市街地の形成を進めています。それぞれの拠点において、「地域のために必要と思う」ものをそれぞれ最大２点選んでください。

（２）ＪＲ三河安城駅地域

東海道新幹線の停車駅であるＪＲ三河安城駅を中心に、西三河における広域的な役割を担うまちづくりを進めています。

1　イベントやマルシェなど、地域で活動できる場所
2　学習室など、勉強・研究できる場所
3　工作教室など、モノづくりや芸術を体験できる場所
4　子ども食堂など、子供の社会課題を解決できる場所
5　カフェやフードコートなど、食事ができる場所
6　バスケットコートなど、スポーツできる場所
7　子供が遊べる、子供と遊べる場所
8　テレワークができる場所
9　わからない



②中学生・若者アンケートにおける設問

問４　ＪＲ三河安城駅周辺には、多くの人が集い、交流し、にぎわいが生まれる施設が誕生する予定です。この施設には、スポーツ観戦やコンサートができるアリーナのほか、子供からお年寄りまで様々な方が気軽につかえる空間ができます。

あなたは、「この空間でどんなことが気軽にできたら」行ってみたいと思いますか。以下より最大４つまで選んでください。【自由記述】

❶バスケクリニックのように、スポーツしながらみんなと交流できる（スポーツを楽しむ・同世代で楽しむ）

❷アンフォーレのように、いつでも仕事や勉強ができる（ひとりで楽しむ・勉強を楽しむ）

❸ソーコネクティッドのように、みんなで何かをつくって披露できる（同世代で楽しむ・地域で楽しむ・企画を楽しむ・アートを楽しむ）

※ソーコネクティッド…西中・篠目中が考案・作成した、三河安城のデザイン倉庫。

❹ふるさと納税返礼品の商品開発のように、社会に関わる職業体験ができる（多世代で楽しむ・社会で楽しむ・企画を楽しむ）

※ふるさと納税返礼品の商品開発…安城生活福祉高等専修学校が安城市を盛り上げるために開発したスイーツ盛り合わせ。

❺マルシェのように、食事しながらみんなと会話や交流ができる（会話を楽しむ・家族と楽しむ）

※マルシェ…公園や道路で行う、おしゃれなお食事や雑貨を買うことができるイベント。

❻つかうmeetFESのように、みんなで企画を練って大きなイベントを開催できる。（企画を楽しむ、苦しみを愛でる）

※つかうmeetFES…三河安城駅周辺で、地域住民が主体となって活動するイベント。

❼その他（自由記述）

③事業者アンケートにおける設問

問８　ＪＲ三河安城駅周辺には、多くの人が集い、交流し、にぎわいが生まれる施設（多目的交流拠点）が誕生する予定です。この施設には、スポーツ観戦やコンサートができるアリーナのほか、子どもからお年寄りまで気軽につかえる空間があり、様々な仕掛けで交流できるようになると期待されています。

あなたの会社は、みんなが交流できる「様々な仕掛け」を行う場合に、どんなことができますか。以下より最大４つまで選んでください。

（最大４つまで○）

1　イベントやマルシェなど、他者が行う地域活動への出店・協賛

2　イベントやマルシェなど、自社又は共同で行う地域活動の企画運営

3　お互いに教えあう、資格取得等に向けた自主学習スペースとしての活用

4　施設空間を活用した、新製品開発に向けた体験・販売テストの実施

5　工作教室など、自社の技術を使ったモノづくりを体験できる教室の開催・資材の提供

6　プログラミング教室や物販販売など、自社の技術・商品を使ったサービス業体験の開催・資材の提供

7　カフェやフードコートなど、食事ができる場所での資材提供・協賛

8　バスケットコートなど、スポーツできる場所での資材提供・協賛

9　子供が遊べる、子供と遊べる場所での資材提供・協賛

10　時間を有効につかうことができる、従業員のためのテレワーク場所としての活用

11　わからない

12　その他（　　）

★アンケート結果所感

①市民アンケートにより得た、三河安城地域において地域のためになる機能

・ＪＲ三河安城駅地域における地域のために必要と思うものについては、「カフェやフードコートなど、食事ができる場所」が39.3％と最も多く、次いで、「イベントやマルシェなど、地域で活動できる場所」が35.5％、「子供が遊べる、子供と遊べる場所」20.3％となっている。

②中学生・若者アンケートにより得た、三河安城地域において地域のためになる機能

・学習できるフリースペースや、市民が集い交流できる空間など、個人が自由に使うことができ、同時に多くの人が集まり楽しむこともできる空間を求める意見が多くなっている。

・「アンフォーレのように、いつでも仕事や勉強ができる（ひとりで楽しむ・勉強を楽しむ）」が60.1％で最も多く、次いで「マルシェのように、食事しながらみんなと会話や交流ができる（会話を楽しむ・家族と楽しむ）」が57.9％、「バスケクリニックのように、スポーツしながらみんなと交流できる（スポーツを楽しむ・同世代で楽しむ）」が34.9％と多くなっている。

③事業者アンケートにより得た、三河安城地域において地域のためになる機能

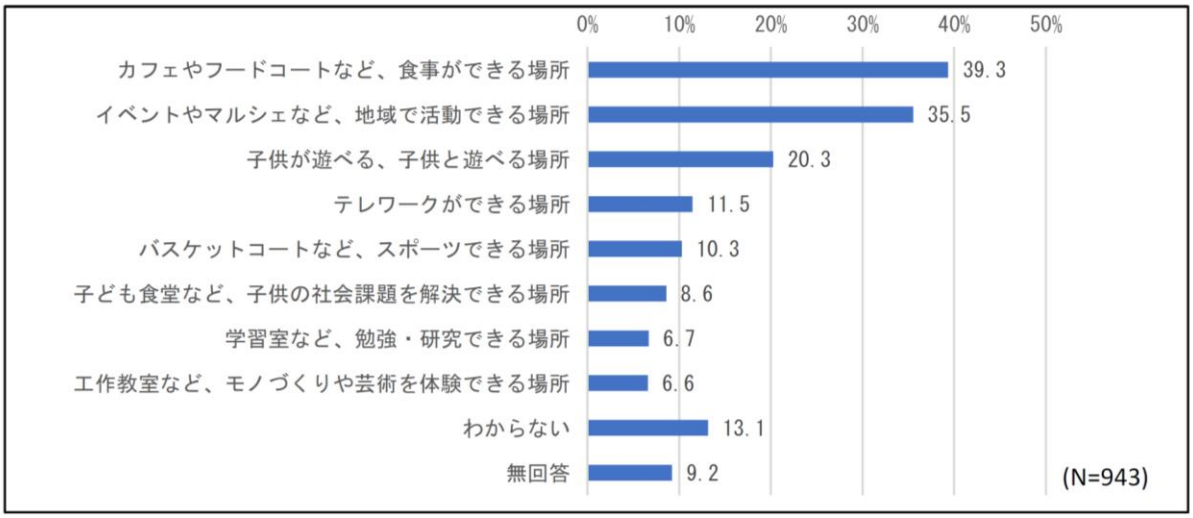
・イベントやマルシェへの参加や開催、飲食スペースへの資材提供など飲食を中心とした連携が可能な企業が多いことが伺える。

・子どもが遊べる場や体験教室等、子どもに関する取組での連携や、テレワークやプログラミングなどビジネス支援での連携等、多分野に渡り市内で連携可能な事業者がいる。

・様々な仕掛けを行う場合にできることは、「イベントやマルシェなど、他者が行う地域活動への出店・協賛」32.8％、「イベントやマルシェなど、自社又は共同で行う地域活動の企画運営」20.2％、「カフェやフードコートなど、食事ができる場所での資材提供・協賛」15.1％と続いている。

★アンケート結果

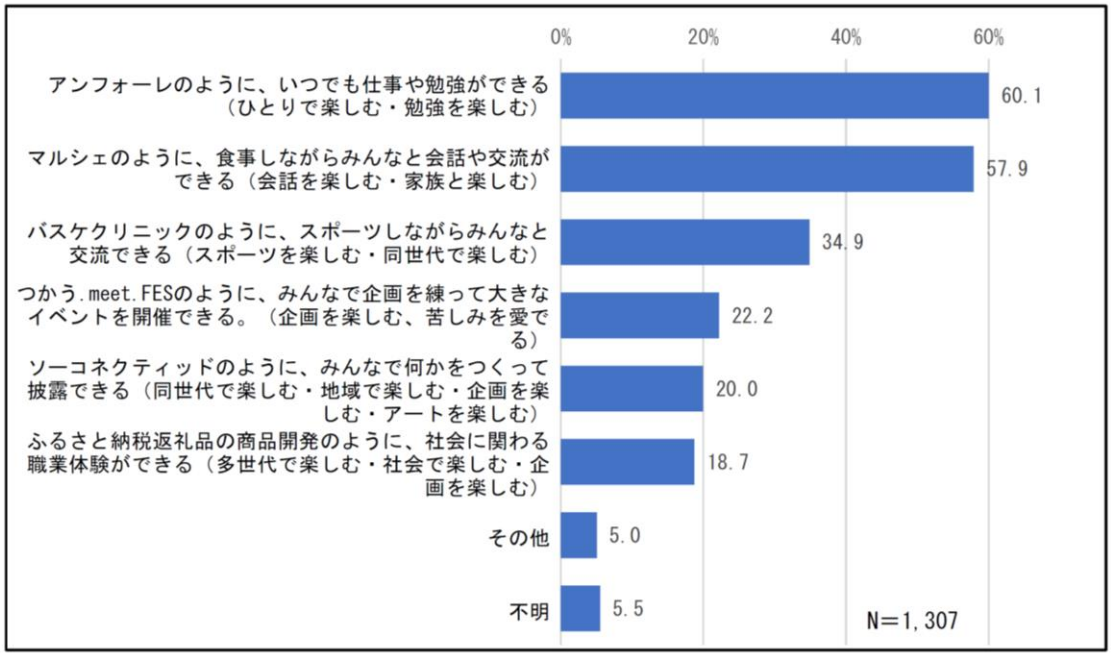
①市民アンケート



（%）

		N（人）	イベントやマルシェなど、地域で活動できる場所	学習室など、勉強・研究できる場所	工作教室など、モノづくりや芸術を体験できる場所	子ども食堂など、子供の社会課題を解決できる場所	カフェやフードコートなど、食事ができる場所	バスケットコートなど、スポーツできる場所	子供が遊べる、子供と遊べる場所	テレワークができる場所	わからない	無回答
全体		943	35.6	6.7	6.6	8.6	39.3	10.3	20.2	11.5	13.2	9.1
性別	男性	388	35.8	5.7	6.4	8.5	41.0	12.6	17.8	9.3	13.9	9.5
	女性	550	35.5	7.5	6.5	8.7	38.4	8.7	22.0	13.1	12.4	8.9
年齢	１０歳代	9	0.0	22.2	0.0	22.2	55.6	0.0	0.0	33.3	0.0	11.1
	２０歳代	88	31.8	10.2	4.5	4.5	50.0	13.6	19.3	17.0	10.2	6.8
	３０歳代	114	34.2	6.1	13.2	16.7	35.1	13.2	33.3	7.9	7.9	6.1
	４０歳代	169	33.7	8.9	7.1	7.1	42.0	11.8	17.8	18.9	9.5	7.7
	５０歳代	202	39.6	4.5	4.5	4.5	47.5	13.4	19.8	13.4	12.9	5.4
	６０歳代	164	42.1	5.5	6.1	9.1	37.2	6.7	25.0	8.5	12.2	7.3
	７０歳代	140	29.3	5.7	5.7	10.0	26.4	5.7	12.1	3.6	21.4	20.7
	８０歳以上	53	37.7	7.5	5.7	11.3	30.2	5.7	13.2	3.8	26.4	13.2
居住地区	安城南中学校区	144	31.9	7.6	6.3	6.3	40.3	15.3	19.4	19.4	8.3	10.4
	安城北中学校区	166	42.2	5.4	7.2	8.4	34.9	9.0	21.1	10.8	15.1	7.2
	明祥中学校区	59	23.7	3.4	8.5	15.3	30.5	15.3	20.3	6.8	16.9	11.9
	安城西中学校区	114	40.4	12.3	8.8	9.6	43.0	13.2	18.4	6.1	10.5	7.0
	桜井中学校区	124	35.5	4.8	5.6	7.3	37.9	8.9	20.2	8.9	16.9	10.5
	東山中学校区	131	29.8	3.1	2.3	10.7	42.0	4.6	20.6	9.9	18.3	12.2
	安祥中学校区	94	43.6	7.4	7.4	10.6	40.4	12.8	13.8	12.8	11.7	8.5
	篠目中学校区	106	32.1	9.4	7.5	4.7	44.3	6.6	27.4	14.2	6.6	6.6
居住年数	１年未満	23	52.2	0.0	21.7	13.0	39.1	0.0	4.3	4.3	17.4	8.7
	１年以上５年未満	71	25.4	2.8	7.0	7.0	36.6	9.9	28.2	12.7	15.5	11.3
	５年以上１０年未満	59	27.1	13.6	6.8	6.8	40.7	11.9	27.1	18.6	11.9	5.1
	１０年以上２０年未満	163	30.1	7.4	5.5	8.0	42.3	8.0	19.0	21.5	11.0	8.6
	２０年以上	623	38.2	6.6	6.1	9.0	38.8	11.1	19.6	8.3	13.5	9.5

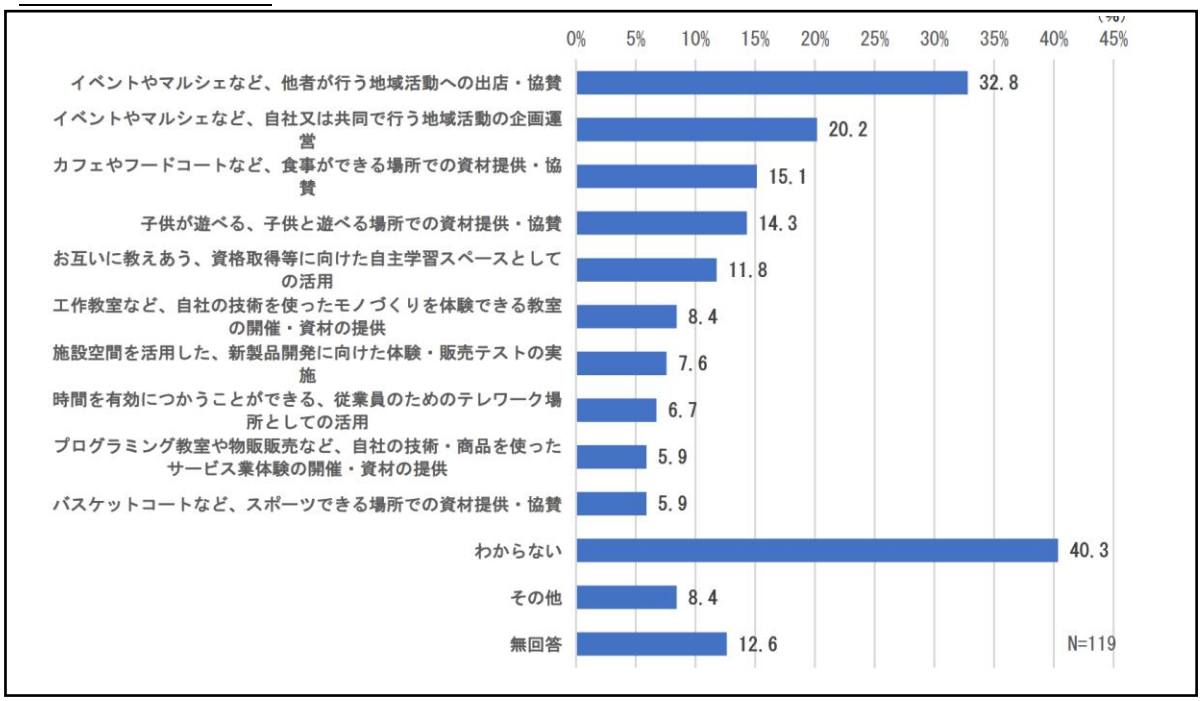
② 中学生・若者アンケート



（%）

		N（人）	アンフォーレのように、いつでも仕事や勉強ができる（ひとりで楽しむ・勉強を楽しむ）	マルシェのように、食事しながらみんなと会話や交流ができる（会話を楽しむ・家族と楽しむ）	バスケクリニックのように、スポーツしながらみんなと交流できる（スポーツを楽しむ・同世代で楽しむ）	つかう.meet.FESのように、みんなで企画を練って大きなイベントを開催できる。（企画を楽しむ、苦しみを愛でる）	ソーコネクティッドのように、みんなで何かをつくって披露できる（同世代で楽しむ・地域で楽しむ・企画を楽しむ・アートを楽しむ）	ふるさと納税返礼品の商品開発のように、社会に関わる職業体験ができる（多世代で楽しむ・社会で楽しむ・企画を楽しむ）	その他	無回答
全体		1,307	60.1	57.9	34.9	22.2	20.0	18.7	5.0	5.5
性別	男性	647	57.5	49.5	45.0	22.1	17.5	18.9	4.9	8.5
	女性	646	63.0	66.3	25.1	22.3	22.4	18.6	5.1	2.5
居住地区	安城南中学校区	177	62.1	55.9	32.8	13.0	13.6	17.5	6.8	6.2
	安城北中学校区	220	65.9	61.8	38.2	22.3	23.2	18.2	5.5	3.2
	明祥中学校区	146	50.7	54.8	42.5	25.3	26.7	21.2	5.5	5.5
	安城西中学校区	214	60.3	64.0	31.8	33.2	22.0	16.4	2.3	5.6
	桜井中学校区	37	59.5	59.5	35.1	21.6	24.3	37.8	5.4	8.1
	東山中学校区	135	55.6	42.2	31.1	13.3	12.6	21.5	5.9	11.9
	安祥中学校区	178	65.2	62.4	38.8	27.0	23.6	14.6	3.4	1.1
	篠目中学校区	194	57.2	58.8	29.9	18.6	15.5	19.6	6.7	6.2

③事業者アンケート



		N（票）	イベントやマルシェなど、他者が行う地域活動への出店・協賛	イベントやマルシェなど、自社又は共同で行う地域活動の企画運営	お互いに教えあう、資格取得等に向けた自主学習スペースとしての活用	施設空間を活用した、新製品開発に向けた体験・販売テストの実施	工作教室など、自社の技術を使ったモノづくりを体験できる教室の開催・資材の提供	プログラミング教室や物販販売など、自社の技術・商品を使ったサービス業体験の開催・資材の提供	カフェやフードコートなど、食事ができる場所での資材提供・協賛	バスケットコートなど、スポーツできる場所での資材提供・協賛	子供が遊べる、子供と遊べる場所での資材提供・協賛	時間を有効につかうことができる、従業員のためのテレワーク場所としての活用	わからない	その他	無回答
全体		119	32.8	20.2	11.8	7.6	8.4	5.9	15.1	5.9	14.3	6.7	40.3	8.4	12.6
従業員数	１人以上５０人未満	103	32.0	21.4	10.7	7.8	8.7	4.9	15.5	4.9	11.7	4.9	41.7	6.8	13.6
	５０人以上１００人未満	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	75.0	0.0	50.0	25.0	0.0
	１００人以上３００人未満	7	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6	28.6	28.6	28.6	0.0
	３００人以上	3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
業種	農林漁業	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	鉱業，採石業，砂利採取業	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	建設業	16	31.3	25.0	6.3	0.0	25.0	0.0	0.0	6.3	25.0	0.0	43.8	0.0	18.8
	製造業	13	15.4	0.0	7.7	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4	61.5	15.4	0.0
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	情報通信業	1	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	運輸業，郵便業	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
	卸売業，小売業	19	26.3	21.1	10.5	10.5	10.5	10.5	21.1	15.8	15.8	0.0	52.6	5.3	10.5
	金融業，保険業	6	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	33.3
	不動産業，物品賃貸業	6	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	16.7
	学術研究，専門・技術サービス業	6	50.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	16.7
	宿泊業，飲食サービス業	11	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1	9.1
	生活関連サービス業，娯楽業	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	教育，学習支援業	2	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療，福祉	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	複合サービス事業	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	サービス業（他に分類されないもの）	16	31.3	25.0	12.5	0.0	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	18.8	56.3	18.8	6.3
	その他	6	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0	16.7

以上